

予防できる唯一のがん 子宮頸がん

OTG健康保険組合
作成：保健師 小野
文責：常務理事 大西昭彦

●子宮頸がんとは??

子宮頸がんとは子宮の入り口付近にできるがんです。通常、子宮頸がんは一定の時間をかけてゆっくりと増殖します。そのため、定期的に検診を受けていれば、がんになる前の「前がん病変（異形成）」の段階で見つけることが可能です。早期に発見されれば、子宮頸がんは治療により比較的治癒しやすいがんとされています。

しかし、日本の子宮頸がん検診の受診率は40%台と低迷しており、若い働き世代の女性や子育て世代の女性が、子宮頸がん罹患して妊娠できなくなる・命を落としているのが今の日本の現状です。

●なぜ若い女性に増えているのでしょうか??

子宮頸がんは20~30代の若い女性に増えており、年代別にみると20代後半から罹患患者数は増加していきま。また、子宮頸がんて亡くなる方は年間2800人程度（2018年）と報告されており、年代別にみると30代後半から増える傾向があります。

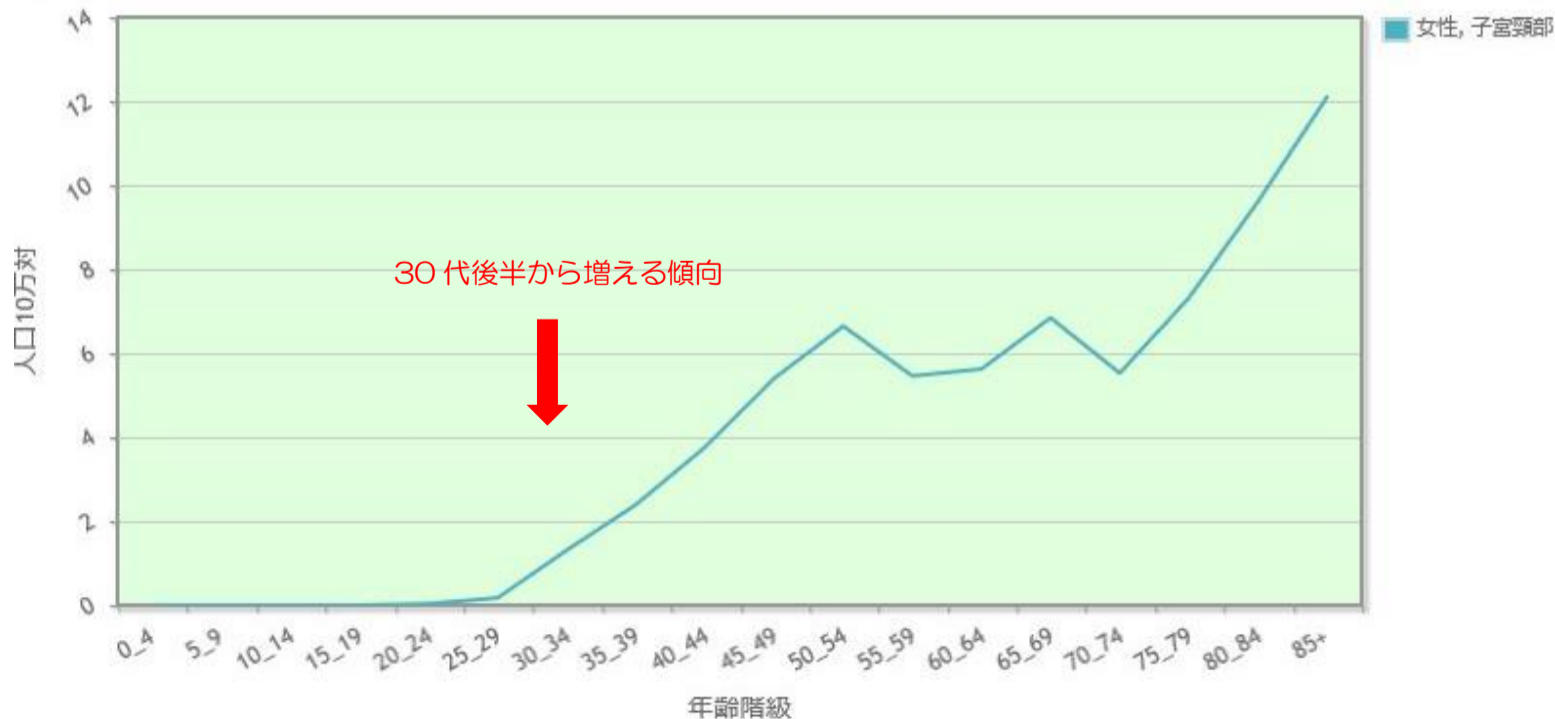
若い女性に子宮頸がんが増えている原因として、「初交年齢の若年化」「がん検診受診率の低さ」「喫煙率の上昇」があげられます。喫煙は子宮頸がんの促進因子であり、子宮頸がんの全ステージにおいて平均より喫煙率が高くなっておりま。

年齢階級別 子宮頸がん罹患率（全国推計値）（女性のみ） 2015年



資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」
Source: Cancer Information Services, National Cancer Center, Japan

年齢階級別 子宮頸がん死亡率（全国推計値）（女性のみ） 2018年



資料：国立がん研究センターがん対策情報センター「がん登録・統計」
Source: Cancer Information Services, National Cancer Center, Japan

●子宮頸がんの原因は??

子宮頸がんの95%以上はHPV（ヒトパピローマウイルス）の持続感染が原因であることがわかっています。HPVは性経験のある女性であれば50%以上が一生に一度は感染するとされている、一般的なウイルスです。通常はHPVに感染しても、異物を排除する免疫機能により排除されますが、自然に排除されずに数年から数十年に渡って、HPV感染が続くことでがんになると考えられています。

●HPVに感染すると、どうなるの??

HPVは感染しても無症状です。そのため、感染者はHPVに感染したことに気づくことはありません。HPVは自然に排除されるとは限らず、増殖したり潜んだりを繰り返しながらうまく感染し続けます。1度感染したら潜伏し続ける可能性を考えて、感染しないための予防ワクチンを早い段階で接種することが大切です。

●子宮頸がんを防ぐためには??

子宮頸がんを予防するには、根本的な原因となるHPV感染そのものをワクチンによってブロックすること（1次予防）、そして、検診によるスクリーニングにて高度前がん病変と早期のがんを発見して治療し、結果的に浸潤がんを減らし、がんによる死亡を予防すること（2次予防）の両者併用による予防の重要性が世界的に認識されています。

●日本のHPVワクチン接種の現状は??

日本では小学6年から高校1年の女子を対象に2013年4月より定期接種化されました。しかし接種後に広汎な疼痛や運動障害などの多様な症状が報告され、わずか2か月後の同年6月より接種の積極的勧奨が一時差し控えられ、今も継続しています。そのため、1994年～1999年度生まれの女子のHPVワクチン接種率が70%程度だったのに対し、2000年度以降生まれの女子では劇的に接種率が低下しています。特に2002年度以降生まれの女子では1%未満の接種率となっています。将来の日本では、接種率の高かった1994年～1999年度生まれの女子においてはHPV感染や子宮頸がんの罹患リスクが低下する一方で、2000年度以降生まれの女子ではワクチン導入前世代と同程度のリスクに戻ってしまうことが予測されています。

●ワクチンを打っているから大丈夫??

HPVワクチンは子宮頸がん全体の50～70%の原因とされる2種類のHPV（16型と18型）などの持続感染の予防や、がんになる過程の異常（異形成）を予防する効果をもつワクチンです。

しかし、全ての高リスク型HPV感染は予防できないため、ワクチンを接種していても、子宮頸がん検診を受診して予防効果を高めることが重要です。

●子宮頸がん検診とはどのようなものですか??

日本において、死亡率減少効果がある検診として推奨されているのは、2年に1回受診する子宮頸部の細胞診による検診です。子宮頸部（子宮の入り口）を先にブラシのついた専用の器具等で擦り、細胞を採取してがん細胞など異常な細胞がないかを顕微鏡で調べる検査です。対象者は20歳以上の女性です。

OTG 健康保険組合で「子宮頸がん検診」が受診できる健診

対 象

総合健診

30歳または35歳の被保険者・40歳以上の被保険者・任意継続被保険者

短期人間ドック

40歳・45歳・50歳・55歳・60歳・65歳の被保険者・任意継続被保険者

家族総合健診

40歳以上74歳までの被扶養者（ただし、子宮頸がん検診を実施していない機関もあります）

スマイル健診

40歳未満の被保険者、被扶養者（ただし、30歳、35歳の被保険者は除く）

各健診の詳細内容はHPや案内をご確認ください。

「子宮頸がん検診」は各自治体でも実施しております。
当健保の上記健診を受ける機会の無い方は、お住まいの自治体で実施している子宮頸がん検診をご活用下さい。